

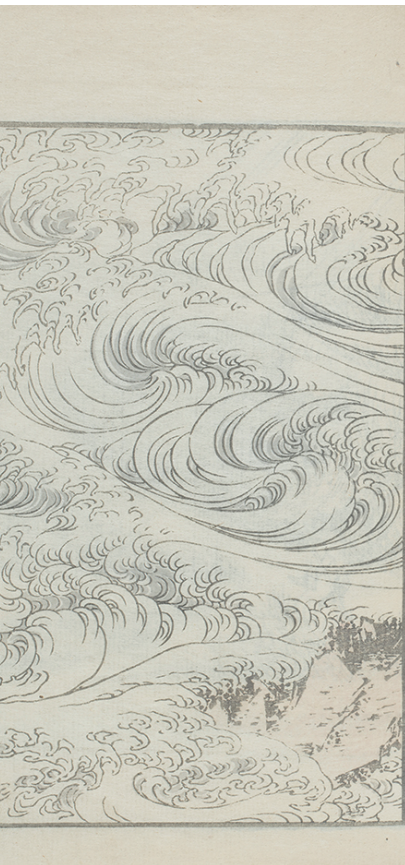




江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎（1760～1849）は、およそ200年前の文化9年（1812）と文化14年（1817）のときに名古屋にやってきました。そして文化9年のときに描かれ、同11年（1814）に名古屋と江戸の出版者から出されたのが、『北斎漫画』（木版画で摺られています）。

この本には、北斎のお弟子さんたちが絵を描くときのお手本となるように、歴史上や当時の人々のすがた、ニワトリやカエル、草木、はたまた水の流れまで、ありとあらゆるものが描かれています。ひとつひとつ見ていくと、北斎の観察力や、それを絵にする画力、次から次へとあふれ出るイメージの豊かさに圧倒されます。現代でいうマンガよりも、イラスト事典といった方が近いかもしれません。

この『北斎漫画』、なんと明治11年（1878）の全十五編まで続く、大ベストセラーとなりました。全2,600図ともいわれるそのなかから、七編におさめられたうずをまく阿波の鳴門（徳島県と淡路島の間にある海の名所）と、八編におさめられた楽しいポーズをとる人物（彼らは身体を使った一発芸をしているのです）の絵をぬりえにしました。元の絵はどちらも灰色と薄い赤茶色で立体感がつけられています。参考にしながら、ぬりえにチャレンジしてみてください。



葛飾北斎『北斎漫画』七編
文化14年(1817)刊 名古屋市博物館蔵

葛飾北斎『北斎漫画』八編
文化14年(1817)刊 名古屋市博物館蔵

この作品は、特別展「北斎だるせん！」（2017年、名古屋市博物館）で展示されました。北斎と名古屋の関係について、もっと知りたい方はこちらをどうぞ。

◀展覧会の詳細▶ <https://www.museum.city.nagoya.jp/exhibition/special/past/tenji170901.html>

◀展覧会図録▶『特別展 北斎だるせん！』2,200円 B5判 152頁（2017）

<https://www.museum.city.nagoya.jp/activity/publish/index.html>